

一般社団法人権利擁護支援プロジェクトともす 川端 伸子



## 考えてみよう

重度認知症の利用者Bさん。昼食が始まると「帰る一、帰る一」「いやだー」「こわいー」と叫んでしまいます。

他の利用者さんも皆さん、びっくりした顔で見ています。

「いい加減に黙ってくださいよ。集団で一緒に食事してるんです!他の方の迷惑にならないようにしてください!」と厳しく注意しました。



この行為は、してもよいことだと思いますか?? そう思うのは何故ですか?

あなたなら、どうしますか??

### 認知症の症状と環境との関係

#### 認知機能障害

記憶障害

認知障害:

失語、失行、失認

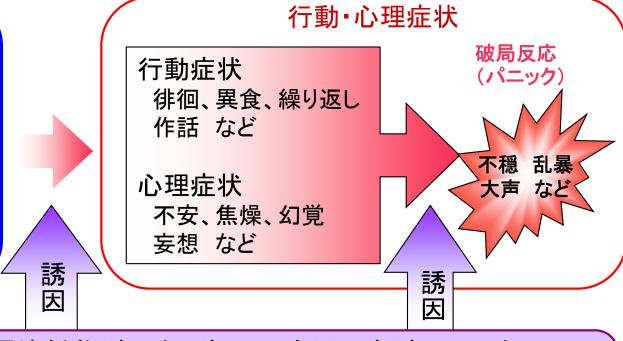
遂行機能の障害

意欲・気力の障害

感情の障害:

安定性・適切性の障害

自己決定の障害等



環境要因

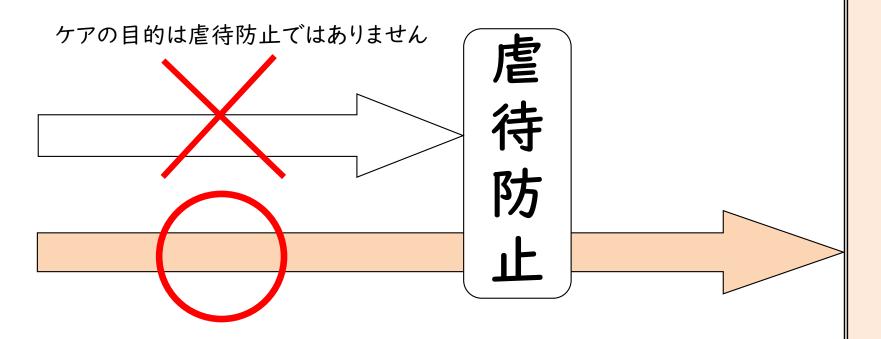
物理的環境:不適切な環境刺激(音、光、陰、風、空間の広がりや圧迫)等社会的環境:不安、孤独、恐れ、抑圧、ストレス、無為、プライドの失墜等ケア・治療環境:水分、電解質管理、便秘、発熱、身体症状(痛み、かゆみなど)の対応への遅れ、薬の副作用、ケア提供者の不用意な言動等

BPSD(認知症の行動・心理症状)は、認知機能障害に図に示すような環境要因が加わって引き起こされる。さらに、周囲の人々が認知症者のサインに気づかないと、破局反応(パニック)に至ることがある。ケアに際しては、認知症者の背景にある環境要因を探り、環境を整えることが大切である。

公益社団法人日本看護協会編『認知症ケアガイドブック』照林社,2016年,p.71より引用 永田久美子: 痴呆高齢者の看護.柿川房子,金井和子編,新時代に求められる老年看護,日総研出版,名古屋.2000:269-281 を一部改変して転載

#### ケアの目的を確認

# 尊厳の保持



「困った反応」を押さえつけようとするのではなく、 「なぜだろう」「どういう時は上手くいっていただろう」と話し合い、 利用者の方一人ひとりにあわせたケアに向けて 環境を整えていくことが大切です た生活への

# もっと学びたい!という時は

厚生労働省「市町村・都道府県における高齢者虐待対応と養護者支援について」(令和5年3月)のp.117~養介護施設従事者等による高齢者虐待の発生要因・課題の整理が掲載されているほか、虐待防止に資する資料、取組の参考例が記載されています。



「その人らしさを大切にしたケアをめざして」 施設内での虐待防止研修に役立つ小冊子です。 ダウンロードして活用いただけるようになっています。



